

平成 23 年度宮古市中央公民館事業
3.11 大津波体験語り継ぎエピソード集

～ あなたにつなぐ
メッセージ ～

当時、私たちは何を思い、どんな行動をしたのでしょうか
ありのままの体験談が、今後の減災につながります

平成 24 年 5 月
宮古市中央公民館

はじめに

平成23年3月11日、いつものようにサークルや講座に参加する皆さんのさわやかな歌声や談笑の音が響く公民館。あの時間以来、環境は一変し、各公民館の役割も変わる日々となりました。

一部開館後には、「仲間と会い、無事を確かめる場所があって良かった」との声をいただきました。少しでも以前の生活をすることで得る心の安心感でしょうか、再会を喜び、活動に励む姿へと変わる様子が公民館も明るい雰囲気となりました。

このような時に公民館として何が出来るのか、事業企画の検討を行いました。公民館では、部屋の貸出の他、様々な事業を開催し、各地から多くの方が集まります。震災後に皆さんと会ってお話するとどんな方でも必ず、一人に1つ以上のエピソードがあると感じ、体験した津波の恐ろしさ、事前に備えておくことの大切さを多くの方に伝えようこの語り継ぎ事業を開催しました。

災害体験や地域の状況について記録を残したい、語り継ぎたいという方へ発信の場を提供することは、貴重な体験の風化を防ぎ、被害の軽減、今後の防災につながります。

聞き取りしたお話は、物語として編集しております。被災体験のほか、津波被害が無い地域のお話も当時の状況証言として掲載しております。また、物語の中には、必ずしも正しい行動とは言えない部分もありますが、当時の様々な場面を皆さんで考える際の資料となりますことを願っております。

エピソード集作成にあたり、生活再建、復興支援などお忙しい中、ご協力くださいました皆様に心から感謝を申し上げます。

■地震の状況(気象庁発表)

- 1.発生時刻 : 平成 23 年 3 月 11 日、14 時 46 分ごろ
- 2.震源地 : 三陸沖(北緯 38 度 6.2 分、東経 142 度 51.6 分、
牡鹿半島の東南東約 130 km付近)
- 3.震源の深さ : 約 24 km
- 4.震源の規模 : マグニチュード 9.0(暫定値)
- 5.震度 : 震度 5 強/茂市 震度 5 弱/五月町、鍬ヶ崎、長沢、
田老、川井、門馬田代
- 6.警報等の発表 : 3 月 11 日 14:49 岩手県に大津波警報
3 月 12 日 20:20 津波警報に切替
3 月 13 日 7:30 津波注意報に切替
3 月 13 日 17:58 津波注意報解除

■津波の概況(気象庁発表)

1. 第 1 波 到達時間 : 3 月 11 日 14:48 高さ 0.2m
2. 最大波 到達時間 : 3 月 11 日 15:26 高さ 8.5m以上

* 後日現地回収した津波観測点記録の分析結果痕跡等から推定した津波の高さ 7.3m(4 月 5 日、盛岡地方気象台発表)

* 津波観測点付近において津波の痕跡等から津波の高さを調査した結果(参考)津波遡上高(陸地を駆け上がり到達した津波の高さ)37.9m (東大地震研究所発表)



中央公民館(築地)より撮影 3.11 夕刻

*** エピソード一覧 ***

NO	タイトル	地震遭遇地区	ページ
1	背泳ぎのように浮かんだ	大通	1
2	お菓子は喉が渇く	向町	2
3	命は紙一重	茂市	3
4	水が来た！と言われて逃げた	末広町	4
5	のんびり自転車で帰った	保久田	5
6	情報がないのが一番つらい	八木沢	5
7	訓練は訓練、自分が逃げる所は決めていよう	日立浜	6
8	命はめいめいこ	磯鷄	7
9	食器棚の留め具をはずしていた	崎鍬ヶ崎	8
10	また戻れると思いついて行った	藤原	9
11	水が来たが！来んな！	築地	10
12	皆同じが安心に	築地	11
13	津波来るぞ！逃げるべし！	藤原	12
14	一番水で困った	築地	13
15	世の中の進んだものがストップした	長根	14
16	3台あったラジオは使えず	長根	15
17	いつも小さい電燈を持っていた	仙台	16
18	何かあったら来て頂戴ね	泉町	17
19	タオル1本、新聞紙のありがたさ	津軽石	18
20	昭和8年の津波	栄町	19
21	意識が高くなっている	保久田	20
22	45号線を越える波はないもんだ	磯鷄	21
23	乗っとがん！	大通	23
24	高い所で止まっていれば	大船渡	26
25	近くに避難したので、倒れている人を発見できた	磯鷄	28
26	持ち出しリュックに順位を決めて	鍬ヶ崎	30
27	堤防があって流れるわけない	田老	31
28	近いとこ、近いとこに下がっていく	緑ヶ丘	33
29	津波と人の怖さ	磯鷄	34
30	夜中2時からガソリン待ち	館合	35

NO	タイトル	地震遭遇地区	ページ
31	2回目の尋常じゃない揺れ	鍬ヶ崎	3 6
32	後日部屋から避難リュックが	小山田	3 7
33	油断、ここまで来るわけない	磯鷄	3 8
34	訓練で役割分担を決めていた	赤前	4 0
35	津波という感覚がなかった	赤前	4 2
36	従業員の対応が早かった	小山田	4 3
37	後のダンプが動いて抜け出せた	藤の川	4 4
38	越えていたら大変だった	宮町	4 5
39	港の入口がぐるぐる渦を巻いた	女遊戸	4 6
40	すぐ足元を波が通った	宿	4 7
41	どういう家庭か役所はわからない	崎山	4 9
42	昔は大きなサイレンがあった	崎山	5 0
43	命拾いした	重茂	5 1
44	無人の軽トラックが風で動いた	重茂	5 2
45	屋根に乗って流されていった	重茂	5 3
46	探す時は呼びかけて	重茂	5 4
47	静かに波は上がって来た	重茂	5 5
48	蓄熱暖房で 2 日間	重茂	5 6
49	避難所運営は誰が	重茂	5 8
50	毛布を 100 枚あげていた	重茂	5 9
51	まさかあんなに来るとは	西町	6 0
52	8m の堤防があるので越えると思わなかった	重茂	6 1
53	3m、次は 6m と行ってぷっつり切れた	重茂	6 2
54	揺れでパニックに	重茂	6 3
55	大きな作根が見えていた	重茂	6 4
56	ダンボール 106 箱	重茂	6 5
57	夜中に巨大津波？	重茂	6 6
58	慎重に行動すれば・・・	田老	6 7
59	手記：「回想 あの日から」	赤前	6 9

*平成 23 年度 10 月から 3 月までに聞き取りしたお話を物語として編集し、掲載しております。

「のど元過ぎれば熱さを忘れる」や「災害は忘れたころにやってくる」の例えどおり、災害が自分の身にふりかかるものとして、日頃から地震や津波、洪水などに備えている人は、少なかったというのが現状ではないでしょうか。あの時間、私たちは何を思い、どんな行動をしたのでしょうか。ありのままの体験談が、今後の減災につながります。次に起こるかもしれないどこかのあなたのために、皆さんの物語が小さな「気づき」につながれば幸いです。

平成 23 年度宮古市中央公民館事業
3.11 大津波体験エピソード語り継ぎ事業
～あなたにつなぐメッセージ～
平成 24 年 5 月 発行

編集・発行：宮古市中央公民館
宮古市築地 1 丁目 3-9
電話 62-5807
FAX 62-6838